

---

# 選択

海山ヒロ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

選択

### 【Nコード】

N4063BA

### 【作者名】

海山ヒロ

### 【あらすじ】

選択の自由がありすぎる。

分を顧みることもなく、どこまでも歩いてゆき、能力を外化することとで月まで行き、なんでも食らいつくす。  
そのことでふと悩む自由すら持っていることに、若りし頃のわたしは、叫びだしたくなったものです。

## （前書き）

ブログからの転載です。いつかこんな悩みや妄想をにつめて、ものがたりを創ってみたいと思います。

病室で、ものすごくホツとしたのを覚えている。

「あなたの足はなくなりました」

白衣を着た「沈痛な」表情をうかべた他人からそう告げられたとき。もうこれで、選ばないですむと思った。

どこへでも自由にゆけるくびきから、「自由」になれた。

わたしの頬をつたう涙を、哀しみのあまりとひとは思ったのだろう。かける言葉がみつからないと、憐みを浮かべて見下ろすひともいた。安堵のあまり、めまいがしそうだったことは、誰にも気づかれずですんだ。

神様アリガトウ。

顔をそむけ、そっともらした呟きは、誰にも聞かれなかった。

（後書き）

「自由」

その言葉がむしろように息苦しくなったとき、上記の設定が頭に浮かんできました。

実際にその状態になったひとが読んだら殺されそうですが、選択できる「不自由」については、誰もなにも言わない。

食物連鎖の頂点にしろうじて引つかかっている我らヒトが、今日の地位を得たのは、なんでもできると過信できるまでの想像力と、大方の生き物より劣り、それゆえ変幻自在の身体能力、そして雑食性です。

選択の自由がありすぎる。

分を顧みることもなく、どこまでも歩いてゆき、能力を外化することとで月まで行き、なんでも食らいつくす。

そのことでふと悩む自由すら持っていることに、若りし頃のわたしは、叫びだしたくなったものです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4063ba/>

---

選択

2012年1月10日19時56分発行